地域スポーツ指導者に関する研究

── スポーツ・クラブ指導者に求められる条件について ──

福 元 和 行，遠 藤 勝 恵*

(1992年6月22日受理)

研究目的

地域社会でのスポーツ活動の活発化，スポーツ産業学会の設立に象徴されるスポーツ・ビジネスの隆盛化によりスポーツ指導者に対する注目が高まっているが，さらに大学の学部改組という要因も加わり，スポーツ指導者の養成プログラムの検討が重要な課題となっている。そのため，その基礎資料となるスポーツ指導者が具備すべき条件についての検討が望まれている。

スポーツ指導者の具備すべき条件については，指導者の性格特性を追求する資性論的アプローチがとられる一方，職務と関係して必要とされる能力の抽出が行われるという2つの側面からのアプローチが試みられており，宇土[1]，川西[2]，新出[3]の研究がある。これらの研究の特徴は，資質あるいは能力を個別的に取り上げ，各々の望ましい条件を明らかにしていることにある。

本研究はこれまで個別的に扱かわれてきた資質と能力を同一次元で扱かい，さらに他の要因も考慮した上で，地域社会におけるスポーツ・クラブの指導者の望ましい指導者像を探ることを1番目の目的とする。2番目の目的はスポーツ・クラブ員の属性別及びクラブの属性別にみた望ましい指導者像の分析にある。

研究方法

1　データの収集

公営体育館を利用して活動しているスポーツ・クラブのメンバーに対して調査を行った。135名の回答を得たが，標本の構成は表－1の通りである。

＊山口大学教育学部

表－1　標本の構成

		N	%
1　男　女　別	男子	85	64.4
	女子	47	35.6
2　年　　齢	10代	2	1.5
	20代	56	41.5
	30代	26	19.3
	40代	19	14.1
	50代	16	11.9
	60代	16	11.9
3　クラブへの参加目的	技術を高めるため	15	11.9
	スポーツを楽しむため	69	54.8
	仲間と楽しく運動するため	20	15.9
	健康づくりのため	21	16.7
	その他	1	0.8
4　クラブでの在籍年数	1年未満	13	10.2
	1年以上3年未満	25	19.7
	3年以上5年未満	22	17.3
	5年以上	67	52.8
5　クラブ種目についての学生時代の運動経験	クラブ種目と同種目の運動部で運動していた	63	53.3
	クラブ種目とは異なった種目の運動部で運動していた	5	4.1
	運動部には入っていなかったが授業で教わった	8	6.6
	上記に該当せず休み時間や放課後行った程度である	11	9.0
	学生時代，全く行ったことがなかった	33	27.0
6　クラブ内での役職	リーダー・世話人	21	16.3
	会計・連絡係	7	5.4
	役職なし	101	78.3
7　種　目	バドミントン	30	24.0
	バレー	5	4.0
	軟式野球	11	8.8
	硬式テニス	19	15.2
	卓　球	8	6.4
	ソフトテニス	26	20.8
	その他	26	20.8
8　所属クラブの活動目的	試合に勝つ	26	19.5
	スポーツを楽しむ	88	66.2
	健康づくり	15	11.3
	その他	4	3.0
9　クラブのメンバー数	10人未満	22	17.1
	10人以上20人未満	47	36.4
	20人以上40人未満	29	22.5
	40人以上	31	24.0
10　指導者の有無	いる（クラブのメンバー）	66	49.6
	いる（クラブのメンバー以外）	7	5.3
	いない	60	45.1
11　練習計画の決定方法	指導者が決定する	11	8.1
	リーダー・世話人が決定する	44	32.6
	指導者とリーダー・世話人が相談して決定する	17	12.6
	クラブ員全員で決定する	50	37.0
	その他	13	9.6

調査は1992年4月に実施した。望まれる指導者の条件の測定には30項目を設定し，「全く思わない」から「強く思う」までのワーディングによるリッカート尺度の5段階評定を用いた。

2　データの分析

データの解析は望まれる指導者像の因子を抽出するため因子分析（最尤法，バリマックス直交回転）を行った。また，属性別に望まれる指導者像を検討するために各属性の変数の因子得点の平均値を求め，比較したが，差異の検定には必要に応じてt検定および分散分析を用いた。なお，クロス分析を行った部分についてはx^2検定を用いた。

結果および考察

1　因子の抽出

期待される指導者像の因子を抽出するため30項目について30×30の因子負荷行列を求め，表－2

表－2　回転後の指導者像因子

因子と変数	因子負荷量
第1因子：資質	
明朗な人	.776
信頼感の持てる人	.720
親切な人	.544
ユーモアのある人	.521
判断力のある人	.480
第2因子：技術指導	
技術を上手に教えてくれる人	.777
指導経験の豊かな人	.643
競技経験の豊かな人	.557
作戦・戦法等の知識を教えてくれる人	.401
第3因子：主体的問題解決	
クラブで困っていることの解決に努力してくれる人	.668
クラブ内の人間関係に配慮してくれる人	.634
悩みの相談相手になってくれる人	.543
クラブと一体化しようと努力する人	.482
クラブをリードしてくれる人	.408
クラブのメンバーである人	.343
第4因子：親和	
日常的に交際のある人	.495
同性の人	.389
若い人	.325
第5因子：運営指導	
練習計画の立て方を教えてくれる人	.911
練習方法を教えてくれる人	.543
運営方法について教えてくれる人	.417

表－3　指導者像変数の因子分析

因　　子	固 有 値	寄与率(%)	累積寄与率(%)
F 1 (資質)	3.582	15.6	15.6
F 2 (技術指導)	3.003	13.1	28.6
F 3 (主体的問題解決)	1.878	8.2	36.8
F 4 (親和)	1.578	6.9	43.7
F 5 (運営指導)	1.040	4.5	48.2

に示した5因子を抽出した。これらの5因子の累積寄与率は48.2%であった（表－3）。これらの因子は第1因子より順に「資質」「技術指導」「主体的問題解決」「親和」「運営指導」と命名した。

第1因子は明朗，信頼感，親切など性格特性に関する項目が並ぶので「資質」と命名した。第2因子は技術を上手に教えてくれる，作戦戦法などの知識を教えてくれる人という項目と共に，指導経験，競技経験が豊かである人という項目も並んでおり，競技力向上につながる技術の指導の出来る人を期待していると考えられるため「指術指導」を命名した。第3因子はクラブ内で困っていることの解決に努力してくれる人，クラブ内の人間間係に配慮してくれる人というクラブ内の問題解決に取り組んでくれる人を求めていると同時に，クラブと一体化し，リードしてくれる人を求め，さらに指導者がクラブのメンバーであることを求めているので，問題解決に主体的に取り組んでくれる人が求められていると考え「主体的問題解決」と命名した。第4因子は親しみを持てる人を求めていると考えられるので「親和」と命名した。第5因子は練習計画の立て方及び練習，運営方法を教えてくれる人を求めているので「運営指導」と命名した。

2　因子と各属性との関連

表－4は男女別にみた因子得点の平均値である。全体的にみた場合，すべての因子に対して男子は支持が高く，女子では支持が低いと言えるが，特に第4因子の親和については，男子と女子の間の支持傾向の差異が大きく，有意差が見られた。つまり，男子は親しみを持てる人を指導者の条件として考えるのに対して，女子では男子ほど親しみを持てる，ということを条件として考えていないと解釈出来る。

表－4　男女別にみた因子得点の平均値

因　　子	男　子	女　子	t-value
資　質	.05	－.12	.839
技術指導	.03	－.03	.741
主体的問題解決	.04	－.04	.667
親　和	.20	－.40	14.823***
運営指導	.04	－.06	.250

***P＜.001

表－5はクラブへの参加目的別にみたものであるが資質及び技術指導に10%水準で有意差が認められた。資質については仲間と楽しく運動することをクラブへの参加目的にする人に支持が多いのに対して，技術を高めること，及び健康づくりをクラブへの参加目的にする人では相対的に支持されていないと考えられる。また，技術指導については技術を高めることをクラブへの参加目的とする人に支持が多いのに対して，仲間と楽しく運動することをクラブへの参加目的とする人では支持が低い。したがって，技術の向上を目的とする人は指導者の技術指導能力を重視しており，性格特性については相対的に問題としていないと考えられる。一方，仲間と楽しく運動することを参加目的とする人は指導者の性格特性を重視し，技術指導能力については相対的に重視していないと考えられる。

表－5　クラブへの参加目的別にみた因子得点の平均値

因　　子	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	F-ratio
資質	－.30	.08	.35	－.38	－1.27	2.188
技術指導	.37	.04	－.42	.01	－1.38	2.110
主体的問題解決	－.12	.10	.18	－.24	－.27	.764
親和	.01	.08	－.24	－.21	.48	.716
運営指導	.17	－.16	.53	.09	－.00	1.549

Ⅰ：技術を高めるため　Ⅱ：スポーツを楽しむため　Ⅲ：仲間と楽しく運動するため
Ⅳ：健康づくりのため　Ⅴ：その他

表－6はクラブでの在籍年数別にみたものである。クラブ在籍年数が1年未満の人ではどの因子に対しても強い支持傾向が見られるが，1年以上3年未満の在籍年数を有する人では支持傾向が弱いことがわかる。運営指導については有意差がみられたが，3年以上5年未満の在籍年数を有する人がこの因子を支持しており，クラブの運営に関り始める時期と見ることが出来る。

表－6　クラブ在籍年数別にみた因子得点の平均値

因　　子	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	F-ratio
資質	.34	－.09	－.13	.00	.707
技術指導	.33	－.04	－.16	.04	.803
主体的問題解決	.18	－.09	.26	－.07	.672
親和	.24	.15	.14	－.13	1.160
運営指導	.00	.44	.57	－.09	3.813*

＊P＜.05

Ⅰ：1年未満　Ⅱ：1年以上3年未満　Ⅲ：3年以上5年未満　Ⅳ：5年以上

表－7はクラブ内での役割別にみたものであるが，各因子に対してリーダー・世話人の強い支持がみられるのに対して，リーダー・世話人以外の人では支持傾向が弱く，クラブ内での役割の如何により，指導者への期待に差異が見られる結果となっている。なお，10%水準ではあるが，資質に

ついて有意差が見られた。リーダー・世話人は資質を指導者の条件として重視しているが，それ以外の人は資質をリーダー・世話人ほど重視していないと言える。

表－8は種目別にみたものであるが，主体的問題解決及び親和に有意差が見られた。主体的問題解決ではバレーボール，野球で支持が高いのに対して，硬式テニス，バドミントンなどの他に種目ではあまり重要視されていないと言える。また，親和についても野球，バレーボールで支持が高く他の種目ではあまり重要視されていないという結果になっており，2つの因子で類似した傾向を示した。表－9は種目別にみた学生時代の運動経験であるが，同一種目の運動部に入って運動していたとする人は野球，バドミントン，バレーボールに多く見られ，他の種目に較べてかなり高い割合を示している。運動経験が全くないとする人は硬式テニスに多くみられる。通常，指導者の機能の

表－7　クラブ内での役割別にみた因子得点の平均値

	リーダー・世話人	リーダー・世話人以外の人	F-ratio
資質	.32	−.07	2.933
技術指導	.02	−.00	.009
主体的問題解決	.17	−.04	.927
親和	.26	−.05	2.219
運営指導	.12	−.02	.314

表－8　種目別にみた因子得点の平均値

因　　子	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	F-ratio
資質	.17	.01	.38	.31	.24	−.43	−.15	1.823
技術指導	.24	−.00	−.33	−.08	.01	.01	−.02	.588
主体的問題解決	.04	.53	.63	−.45	.35	.24	−.31	3.245***
親和	−.29	.28	.43	−.24	.09	−.26	.47	3.474***
運営指導	.09	−.11	.13	−.37	.30	.11	−.27	.827

***P＜.001

Ⅰ：バドミントン　Ⅱ：バレーボール　Ⅲ：軟式野球　Ⅳ：硬式テニス　Ⅴ：卓　球
Ⅵ：ソフトテニス　Ⅶ：その他

表－9　種目別にみた学生時代の運動経験

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ
同種目の運動部で運動した	70.0	60.0	72.7	31.6	40.0	42.3	53.8
異種目の運動部で運動した	10.0				12.5	3.8	
授業で教わった	3.3	40.0	9.1		12.5	3.8	7.7
休み時間・放課後，個人的に行った	3.3			15.8	12.5	26.9	3.8
全く行ったことがなかった	13.3		18.2	52.6	12.5	23.1	34.6
	(N＝30)	(N＝5)	(N＝11)	(N＝19)	(N＝8)	(N＝26)	(N＝26)

Chi-square value ＝44.33　　***P＜.001

1つとしてクラブでの解決が困難な問題の解決があると考えられるが，学生時代の運動部経験はクラブの問題解決の可能性を高めるため，運動部経験者のクラブ内での比率が高い場合，指導者への依存が弱くなると考えられる。しかし，クラブと同一種目の運動部経験者が多いバレーボール，野球で他の種目よりも主体的問題解決への支持が高くなっているため，支持が高い理由を学生時代の運動経験に求めることが困難な結果となっている。バレーボール，野球は集団的スポーツと呼ばれる種目であり，他の種目であるバドミントン，硬式テニス，卓球，ソフトテニスとは種目の特性が異なると考えられるが，主体的問題解決及び親和に対する集団的スポーツ種目とその他の種目の対応の差異の理由を，種目の特性に求め得るか否かは今後究明される必要がある。

表－10　クラブのメンバー数別にみた因子得点の平均値

因　　子	～9人	10人～19人	20人～29人	30人～39人	40人～	F-ratio
資質	.05	.07	.17	.14	－.26	.872
技術指導	－.07	.04	－.42	.13	.10	1.007
主体的問題解決	－.67	.10	.36	－.09	.10	3.712**
親和	－.47	.10	.15	.54	－.18	3.611**
運営指導	.01	.12	－.19	.08	－.13	.409

**P＜.01

表－10はクラブのメンバー数別にみたものである。構成員数が10人未満のクラブのメンバーでは各因子に対する支持が他のグループと比較して相対的に低く，各因子に対して比較的高い支持傾向の現われている10人～19人のメンバー数のクラブのメンバーと異なった傾向が見られる。因子では主体的問題解決及び親和について有意差が見られた。主体的問題解決については他のグループと比較して，10人未満のクラブでは支持が低く，10人未満のクラブでは他のグループほど指導者に問題解決への主体的な取り組みを期待していないと考えられる。また，親和についても10人未満のクラブでは支持傾向が弱い。表－11はクラブのメンバー数別にみた学生時代の運動経験であるが，10人

表－11　クラブのメンバー数別にみた学生時代の運動経験

	～9人	10人～19人	20人～29人	30人～39人	40人～
同種目の運動部で運動した	45.5	68.1	46.7	35.7	41.9
異種目の運動部で運動した	9.1	4.3			3.2
授業で教わった	4.5	4.3	6.7	21.4	3.2
休み時間・放課後，個人的に行った		4.3		21.4	25.8
全く行ったことがなかった	40.9	19.1	46.7	21.4	25.8
	(N＝22)	(N＝47)	(N＝15)	(N＝14)	(N＝31)

Chi-square value ＝32.195　　***P＜.001

未満のメンバー数のクラブに，同一種目の運動部経験者が他のグループと比較して，特別に多数在籍している訳ではないこと，また，当該種目を学生時代に全く行ったことがないとする人が，比較的多く在籍していることがわかる。したがって，メンバー数の違いに伴なう指導者への期待内容の差異の理由を，学生時代の運動経験により説明することは出来ない。

表－12　指導者の有無別にみた因子得点の平均値

因　子	いる（クラブのメンバー）	いる（クラブのメンバー以外）	いない	F-ratio
資質	.02	.48	－.07	1.018
技術指導	.13	.11	－.12	1.033
主対的問導解決	.07	－.20	－.08	.545
親和	.23	－.20	－.21	3.988*
運営指導	－.04	.29	.03	.311

*P＜.05

表－12は指導者の有無別にみたものである。クラブのメンバーがクラブの指導者を兼ねているクラブでは親和についての支持が高いが，指導者がクラブ・メンバー以外の人の場合，あるいはクラブに指導者が存在しない場合のクフブでは，親和についての支持は相対的に低い。

要　約

本研究は地域社会におけるスポーツ・クラブ指導者の望ましい指導者像を，資質と能力を同一次元で扱かい，さらに他の要因も考慮した上で探ること，及びスポーツ・クラブ員の属性別，クラブの属性別にみた望ましい指導者像の分析を行うことであったが，結果を要約すると以下のようになる。

1　因子分析の結果，指導者像因子として「資質」「技術指導」「主体的問題解決」「親和」「運営指導」の５因子が抽出された。第１因子より第５因子までの累積寄与率は48.2%であったが，各因子の寄与率は第１因子より順に15.6%，13.1%，8.2%，6.9%，4.5%であった。

2　属性別の望まれる指導者像を探るため各属性別に因子得点の平均値の比較を行ったが，特徴的な事項をまとめておく。

第１因子の「資質」及び第２因子の「技術指導」については，有意差はみられなかった。つまり，全体的に支持されているということであり，スポーツ・クラブ指導者の具備すべき条件として一般的に認知されていると言える。

第３因子の「主体的問題解決」については，集団的スポーツ種目である「バレーボール，野球」で高い支持が見られた。また，「グループのメンバー数が10人未満のクラブ」では低い支持傾向が認められた。

第４因子の「親和」については「男子」「バレーボール，野球」「グループの構成員数が10人未

満のクラブ」「クラブのメンバーを指導者としているクラブ」で強い支持傾向が認められた。

第５因子の「運営指導」については「クラブ在籍年数が３年以上５年未満のクラブ員」に強い支持が見られた。

本研究は地域社会におけるスポーツ・クラブの指導者の望まれる指導者像を探ってきたが，より詳細な分析のためには，種目や活動目的に着目した多元的分析手法をとる必要があり，今後の課題としたい。また，スポーツ指導者の活動領域は地域社会のスポーツ・クラブ以外にもＰ・Ｓ，Ａ・Ｓ，あるいは商業スポーツ施設など多様であり，各々の活動領域でのスポーツ指導者の具備すべき条件の解明が必要であるが，このことも今後の課題としたい。

参考文献

(1) 宇土正彦他：「社会体育指導者に関する研究 ― とくに求められる能力・知識・指導行動について ― 」，筑波大学体育紀要，第２巻，pp，１～14，1979

(2) 川西正志他：「社会体育指導者の現状とマーケットに関する研究Ⅱ ― 資質と専門的知識について ― 」，鹿屋体育大学研究紀要，第３巻，pp，15～24，1988

(3) 新出昌明他：「商業スポーツ指導者の実態と資質に関する研究」，日本体育学会第39回大会号，1988

(4) 宇 土 正 彦：体育管理学，大修館書店，1983

(5) 宇土正彦他編著：体育経営管理学講義，大修館書店，1989

(6) 体育社会学研究会編：体育・スポーツ指導者の現状と課題，道和書院，1976

(7) 粂野豊・佐伯聰夫編著：現代スポーツ指導者論，ぎょうせい，1988

(8) 前川峯雄他編：指導者のためのスポーツクラブ，プレスギムナスチカ，1979

(9) 森川貞夫・佐伯聰夫編著：スポーツ社会学講義，大修館書店，1988

(10) 芝祐順：因子分析法，東大出版会，1983